

京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科
2012年度 JASSO ショートビジット派遣報告書

報告者氏名 角田さら麻

23年度(入学・編入)

1.研究課題：

東アフリカ・ザンジバルの建築様式と村落の構造 -アラブ交易の影響に着目して-

2. 渡航先：タンザニア

現地滞在期間：平成 2012年 7月 2日 ～ 2012年 9月 14日 (75日間)

3.今回の派遣により、申請時に自身の目的としてあげた点について得られた知見を述べてください

派遣者は、調査地（ペンバ島農村部 G 地区）において派遣当初に目的としてあげていた全家屋の形態・構造・工法・材料の調査をおこなった。これにより調査地の家屋の全体像を把握することができた。GPS を用いて建設年や家屋の位置を地図上に位置関係を可視化するためにプロットをおこない、土地の変遷を明らかにすることもできた。調査地の家屋は、近年まで建築材料を周辺環境に強く依存していたが、長年の森林伐採のため木材が減少、換金作物のクローブ価格の高騰や急速に進んだインフラ整備の影響をうけ、使用する建築材料におおきな変化がみられてきた。建築材料の変化のなかには、家屋の各所でさまざまな工夫がみられるものの、基本的な家屋の形態には必ず確保・維持される空間や装飾なども確認できた。確保・維持された空間や装飾の多くは前回の現地調査でアラブ的特徴として派遣者が確認したものであり、確保・維持される経緯について今後検討していきたい。

4. 自身の今後の海外への渡航や留学に向けた課題や長期的な展望について述べてください

今回の派遣では調査地での長期間にわたって住み込み調査を実施したが、派遣者が着目している農村家屋にあてたアラブ文化の影響を探るためには広域調査が必須となる。調査地はアラブ文化の影響を色濃く受けたと推定される広範囲の一部であるため今後、調査範囲を島全土、本土の沿岸部地域、そしてかつて歴史的に深いかわりをもっていた内陸の地域まで徐々に広げる予定である。本研究は将来アフリカ文化と認識されてきた根底に根付いているアラブの影響をみいだすことが期待される。また、現在の調査地において、今後数年のうちに外部からの改革、開発などの影響を受けることが予想されるため、広域調査をおこないつつ、現調査地の変貌をきちんと記録していくことも重要となってくる。

5. 本プログラムに参加した感想や、今後どのような留学プログラムがあれば参加したいか、希望をお聞かせください

本プログラムは、派遣者のニーズや現地での調査を最優先にあげているため、2ヶ月半という短い期間ながらも有意義な調査をおこなうことができた。今回の調査は派遣者にとって2回目の渡航でもあり、今後研究を進めていくにあたり非常に重要な機会となった。今後、長期の派遣（半年以上）が可能なプログラムがあればぜひ参加したいと考えている。

*1 ページを超えないようにしてください。

* **プリントアウトして、署名を記入の上、提出してください。**

署名